

SAS-M<sub>izoguchi</sub>

# Simple And Secure Mutual Authentication Protocol

MIZOGUCHI Koki<sup>1</sup>

Kochi University of Technology

November 22, 2022



KOCHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

---

<sup>1</sup>情報セキュリティシステム研究室

# 概要

## 概要

SAS-M（仮）は，SAS-L を基盤として，Client と Server が相互認証する機能を追加した認証プロトコル．

## 相互認証の必要性

SAS-L では，Server から Client の認証は可能だが，Server から登録されている Client は Server が正当なものとして通信が行われる．つまり，Client は Server を真には認証していない．**Server を真に認証するところで，重要な情報を送る Client は Server の正当性を確かめることに十分な意味を見出せる．**

# 認証手順

## 略号・記号

$\oplus$  排他的論理和.

$E_n(x)$   $x$  に対して,  $n$  回一方向性ハッシュ関数を施す.

## Server 側の処理

### Server 生成データ

$$A_i = E_1(\text{SID} \mid S \oplus N_i)$$

$$A_{i+1} = E_1(\text{CID} \mid S \oplus N_{i+1})$$

$$A_{i+2} = E_1(\text{CID} \mid S \oplus N_{i+2})$$

### 初回認証情報

$$A_i \oplus A_{i+1}$$

1. Secure  
to Client

$$\beta_i = E_1(A_i \oplus A_{i+1})$$

$$\beta_{i+1} = (A_i \oplus A_{i+2})$$

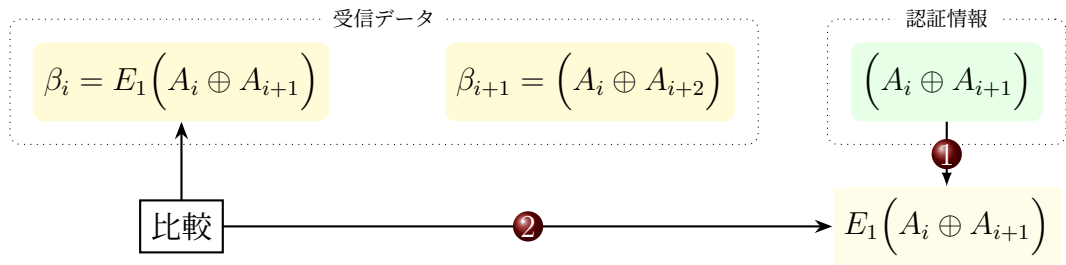
2  
to Client

### 送信用データ

<sup>1</sup>SID：サーバ固有 ID

<sup>2</sup>CID：クライアント固有 ID

## Client 側の処理



① 認証情報に一方方向ハッシュ関数を施す。

② 比較で Client が Server を検証する。

- 不一致の場合、認証不成立。（Server が不正である可能性あり）

## Client 側の処理

受信データ

$$\beta_i = E_1(A_i \oplus A_{i+1}) \quad \beta_{i+1} = (A_i \oplus A_{i+2})$$

認証情報

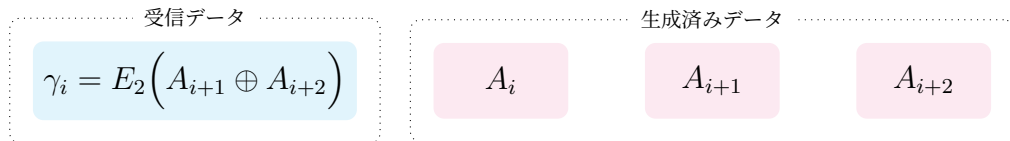
$$(A_i \oplus A_{i+1})$$

$\beta_{i+1} \oplus (A_i \oplus A_{i+1}) = (A_i \oplus A_{i+2}) \oplus (A_i \oplus A_{i+1})$

$$= A_{i+1} \oplus A_{i+2} \quad (3)$$

- ③ 次回認証情報,  $A_{i+1} \oplus A_{i+2}$  を Client に保存.
- ④  $\gamma_i = E_2(A_{i+1} \oplus A_{i+2})$  を生成.
- ⑤  $\gamma_i$  を Server へ送信.

## Server 側の処理



- ⑥ 生成済みデータから,  $E_2(A_{i+1} \oplus A_{i+2})$  を生成する.
- ⑦ 受信データ  $\gamma_i$  と比較する.
  - 不一致の場合, 認証不成立. (Client が不正である可能性あり.)
  - 一致した場合, 認証成立.
- ⑧  $\gamma_i$  を利用した共通鍵暗号方式で通信を行う.

## 軽量度

Server と Client の一方方向ハッシュ関数の利用回数・排他的論理和の排他的論理和の演算回数は以下.

演算	Client	Server
一方方向ハッシュ関数	3	6
排他的論理和	1	6

結果のように, Client では一方方向性ハッシュ関数の適用が 3 回である. これは, SAS-L の 0 回と比べて軽量とは言えない. Client もある程度の処理能力は必要であろう.